平成３０年度「知事と市町長の１対１対談」（御浜町）概要

１　対談市町名　　御浜町（大畑（おおはた）　覚（さめる）　御浜町長）

２　対談日時　　平成３０年７月４日（水）１３：３０～１４：３０

３　対談場所　　御浜町役場　３階　くろしおホール

（南牟婁郡御浜町大字阿田和６１２０－１）

４　対談項目

対談項目１　近畿自動車道紀勢線の未事業化区間の新規事業化について

対談項目２　紀南病院の医師確保について

対談項目３　観光集客による地域づくりについて

５　対談概要

（１）近畿自動車道紀勢線の未事業化区間の新規事業化について

（御浜町長）

「新宮紀宝道路」については、平成 30 年度、三重県側で初めての工事が発注されました。紀勢線の整備が着実に進むことは、この地域にとって非常に明るい話題です。

未事業化区間のうち約 10 ㎞が御浜町の整備予定区間であり、地籍調査事業については、約８割が事業着手をしており、平成 30 年度末に約７割を完了予定としています。残りの２割についても、平成 30 年度の事業着手に向け取組を進めているところです。

ミッシングリンクの解消に向け、平成 30 年度は「攻め」の要望活動を実施したいと考えています。知事をはじめ県土整備部の皆さんには、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

（知事）

津波避難タワーの上から周囲の状況を確認し、大規模災害時における救援・救助や、その後の復旧・復興活動を円滑に行うために、未事業化区間を早期に整備することの重要さを改めて認識しました。

「新宮紀宝道路」では、約８割の用地買収が完了し、紀宝町地内で工事着手につなげることができました。引き続き、残りの用地買収を進め、整備促進に取り組んでまいります。

「熊野道路」では、これまで約３割の用地買収が完了しており、紀勢国道事

務所と連携して工事着手に必要な用地を優先的に取得するとともに、埋蔵文化財調査を行う教育委員会とも連携し、早期工事着手できるよう取り組んでいきます。

地域住民の方には事業が進んでいないように感じるかもしれませんが、地籍調査などの見えない部分で着実に進んでいます。平成30年度は、地元の機運を高めるようなイベントを開催する等、関係者の皆様との連携をより深めていきたいと思います。

（御浜町長）

（２）紀南病院の医師確保について

紀南病院の医師数が現状のまま推移した場合、医師の地域偏在の影響や、国が進める働き方改革によって今後さらに医師の必要数の増加が見込まれることなどから、病院機能の維持が困難となる可能性があります。

紀南病院では、平成30年度は、医師の勤務環境の向上を図る目的で、医師宿舎の建替えを行うなど、医師確保に繋がる取組を実施します。

また、紀南病院組合を構成する熊野市、紀宝町及び御浜町においても、紀南病院の維持、充実のため、財政拠出などの支援をしています。

三重県におかれましては、紀南病院の医師確保について引き続き内科医など自治医科大学出身医師の派遣や三重大学に対する積極的な医師派遣の要請をお願いするとともに、紀南病院の維持、充実にご理解とご支援を賜りますようあわせてお願いいたします。

（知事）

三重県では人口 10 万人あたりの医師数(217.0 人）が、全国平均（240.1 人）を下回っています。そのような中、過去 10 年間（平成 18～28 年）の医師数の増加については、全国平均で 10 万人あたり 33.8 人増加しているのに対し、三重県は、医師修学資金貸与制度の運用などに取り組んだことで、39.1 人（全国順位 13 位）となり、県内の医師数は着実に増えてきています。

産婦人科医師については、三重大学の産婦人科医局に対して、医師派遣を行うよう要請を行っているところですが、残念ながら紀南病院の産婦人科医師の確保には至っていません。

県としては、三重専門医研修プログラム（後期臨床研修プログラム）の作成や、都道府県協議会において、地域医療確保の観点から議論を行うなど、専門医の確保に向けた環境整備を進めています。

また、県が紀南病院内に開設した三重県地域医療研修センター（通称ＭＥＴＣＨ（めっちー））では、新・研修センター長に鈴木孝明医師を迎え、地域医療を担う医師の育成に取り組んでいます。また、平成30年度は自治医科大学から６名の内科医師を派遣し、吐血患者の救急対応などの役割を果たしています。

県としても医療従事者が働きやすい環境づくりや、医師確保に取り組んでまいりますので、御浜町におかれましても、引き続き紀南病院の産婦人科医師や専門医の確保に向けた取組を進めていただきますよう、よろしくお願いします。

（御浜町長）

（３）観光集客による地域づくりについて

熊野三山のある和歌山県側では、インバウンドをはじめとした国内外からの個人旅行者による宿泊滞在型観光が、地域経済に広く波及しつつあります。しかし、受け入れ態勢が整っていない三重県側まで訪れる旅行者は少なく、本町においても、受け入れ態勢を整備する必要性を感じており、インバウンドをはじめとした個人旅行者をターゲットに、新たなビジネスに挑戦できる環境を整えることが重要であると考えています。

旅行者がもたらす経済効果を最大化するためには、町内での宿泊者数を増やし、滞在時間を大幅に延ばすことが必要であり、観光により生み出される地域の経済効果と町全体の知名度の向上とがよりよい形で循環するよう、町としての役割を担ってまいりたいと考えています。

また、人口減少による地域の活力低下を抑えるべく、移住・交流にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

（知事）

７月５日の紀伊半島知事会議で、熊野古道世界遺産15周年に向けての３県連携を議題として提案します。

和歌山県の田辺市では外国人観光客の６割が欧米人であり、彼らは旅行先の文化や歴史、体験に関心があります。御浜町におかれましても、これらの情報を発信していくとともに、和歌山県とも連携していただきたいと思います。

また、県としてもインバウンドを増やす仕掛けをしていきたいと考えています。体験メニューを充実させるため、県も御浜町と連携していきたいと考えています。

そして、宿泊を念頭に置くのでしたら、宿泊にあわせて地域で食事をとってもらうような取組が少しずつ増えてくると良いと思います。御浜町においては、地域おこし協力隊と協力して取り組んでいると聞いていますし、県としても連携したいと思います。

移住者を呼び込むには「お試し移住」が有効であると考えています。平成 29 年度三重県へ移住した人に対して移住先の決め手を聞いたところ、「自然環境が豊か」「対応が丁寧」という回答が多かったです。御浜町には豊かな自然がすでにあるので、移住希望者への対応をより丁寧に心がけることで、移住者を増やしていくことができると期待しています。